

社会との共生

医療の発展、青少年育成への取組み

環境への取組み

地域における社会貢献活動

社内募金、寄付講座

ピンクリボン運動の推進

日本ユネスコ協会連盟への支援

医療の発展、青少年育成への取り組み

当社では、生活習慣病の研究、青少年の健全な育成活動などの社会貢献活動についても積極的に取り組み、一層の「企業価値の向上」を目指すことで、当社と社会の相乗的な発展を推進していきます。

朝日生命成人病研究所 附属医院

1960年5月、社会福祉に貢献することを目的に、朝日生命成人病研究所を設立し2020年5月には創立60周年を迎えました。

当研究所は、研究部門と外来・入院診療施設を備えた附属医院からなり、成人病(生活習慣病)の予防・診断および治療に関する研究と、地域の皆様をはじめとして受診を希望される方への診療を行っています。

とりわけ、糖尿病に関しては、その成因や治療法、合併症の抑制などの研究とともに、専門医等からなるチーム医療を提供し、患者様が主体的に治療に参加する方式を取り入れることによって、糖尿病の克服を目指しています。この療養指導は「糖尿病療養指導鈴木万平賞」を受賞するなど外部からも高く評価されています。

当社は、当研究所とともに、生活習慣病に関する情報提供や、生活習慣病予防のためのセミナー開催を通じて、一人ひとりの“生きる”を支え、健康寿命の延伸に向けた取り組みを積極的に展開しています。



2020年度実績
【研究事業】
 原著論文 15編、総説 16編、
 国内および海外における学会発表 18編
【診療事業】
 外来診療(延べ人数) 47,597人
 入院診療(延べ日数) 1,324日

朝日生命体操クラブ・体操教室の活動

朝日生命体操クラブは、1974年、地域に密着した体操の普及を通じて、少年少女の健全なる育成を図ることを目的に発足し、現在は、アテネオリンピック金メダリストの塚原直也氏が総監督を務め活動しています。これまで25名のオリンピック選手を輩出しており、世界選手権大会ならびに全日本選手権大会、NHK杯など国内外の競技大会で多数の選手が活躍しています。

朝日生命体操教室は、地域に密着した活動を基本としており、3歳から高校生までを主な対象とした授業に加え、成人女性を対象としたストレッチ教室を開催し、体操を通じた健康づくりに貢献しています。

現在、朝日生命体操クラブ・体操教室には、約650名が会員として在籍しており、健全性を育むとともに、明日のオリンピック選手を夢見て日々の練習に励んでいます。

幼児からオリンピック選手まで一貫した体操教育を同一施設内で行っており、このような充実した環境を提供している体操クラブ・教室は他に例をみません。



【写真提供：オールスポーツコミュニティ】



環境への取り組み

朝日生命環境方針

当社では、環境に配慮した経営姿勢を明確にするため、2010年に「朝日生命環境方針[※]」を定めました。脱炭素社会への貢献を図っていく中で、地球環境保護への取り組みが経営の重要課題であると認識し、朝日生命エコプロジェクトを通じて環境問題に取り組んでいます。

※「朝日生命環境方針」は当社ホームページにて開示しています。

環境数値目標

■エネルギー使用量の削減

省エネ法に基づいた当社自主目標であるエネルギー使用量削減について、朝日生命エコプロジェクトを通じて全社を挙げて取り組んでいます。

【2018～2021年度のエネルギー使用量削減目標】

業務用店舗全体 2.5%削減
 (2017年度比)

【2020年度実績】

10.1%削減(2017年度比)

■CO₂削減目標の新規設定

2020年7月に生命保険協会で決定したCO₂削減目標に準拠して新中期経営計画にて新規設定しました。

【2030年度までのCO₂排出量削減目標】

2013年度を基準として床面積あたりの電力消費量を年平均1%削減し、CO₂排出量を2013年度比で40%削減することを目指します。

朝日生命エコプロジェクトの展開

■朝日生命エコプロジェクト

電力使用量の削減

水道使用量の削減

ペーパーレスの推進

3R[※]の徹底

環境に関する知識と意識の向上

※ 3R=Reduce(廃棄物の発生抑制)、Reuse(製品の再使用)、Recycle(資源の再利用)

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への対応

金融安定理事会により設置されたTCFDが発表した提言に、当社は2019年6月に賛同しました。

TCFD提言が推奨する気候変動に係わる「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の各項目につき、本業である「生命保険事業」、機関投資家としての「資産運用」の両面から、当社の「サステナブル(持続可能)な社会の実現への貢献」の取組状況に関する開示の充実を図ってまいります。

■ガバナンス

当社では、気候変動を含め、地球環境保護の取組みを進めるため「朝日生命環境方針」を定めています。また、責任ある機関投資家として「ESG投融資の基本方針」を定め、サステナブル(持続可能)な社会の実現に貢献することを目指しています。

これらの方針のもと、TCFD対応を含んだ気候変動対応について、経営者が監視する体制を構築してまいります。



■戦略(リスクと機会)

生命保険事業

平均気温上昇や異常気象が中長期的に人の健康に与える影響および自然災害の激甚化による影響を物理的リスクとして認識しています。また、脱炭素社会に移行するための想定を超えた事業コスト等の増加を移行リスクとして認識しています。引き続き、各課題に関する情報収集を継続してまいります。

資産運用

気候変動の影響に伴う物理的リスクや移行リスクが当社の投資先企業の持続可能性に影響を与えられ、資産価値が棄損するリスクとして認識しています。一方で、気候変動の問題解決に資する投資機会の増加を収益機会として認識し、テーマ型投融資等の取組みを推進します。併せて、当社投資ポートフォリオについて、上述の気候変動リスクを低減するため、投資先との対話活動を実施してまいります。

■リスク管理

生命保険事業

気候変動による疾病罹患率や死亡率等への影響、自然災害による保険金等支払いへの影響について調査・研究を進めるとともに、自然災害の激甚化を踏まえた業務継続計画等の継続的な見直しに取り組んでいきます。また、脱炭素社会への移行による影響について調査・研究を進めていきます。

資産運用

投融資ポートフォリオに与える影響の分析に向け、体制整備等を進めていきます。

■指標と目標

生命保険事業

2030年度までのCO2排出量削減目標を設定しました。
【2013年度比40%削減】

地域における社会貢献活動

神奈川県との「未病改善の推進等に関する連携協定」の締結

2020年9月に、当社と神奈川県は、県民の健康寿命の延伸を図り、誰もがいきいきと暮らせる社会の実現に向け、未病対策の推進に相互に連携・協力して取り組むため、「未病改善の推進等に関する連携協定」を締結しました。

神奈川県下の3支社、37営業所による、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するチラシや、認知症相談窓口チラシ等の啓発チラシを県内のお客様へお届けする普及活動を通じて、県民の健康と安全に向けて地域に密着した活動に取り組んでいます。



各地域での活動

労働組合福島支部では、例年11月に「愛の募金」活動を行っており、毎年、県総合社会福祉基金に寄付しています。2020年度で23回目となり、総額は208万円に上っています。

山口支社では、街の景観美化活動の一環として、下関市が主催する「海峡花通り『下関花いっぱい計画』」に賛同し、下関市が管理する支社玄関前の花壇へ、春と秋の年2回苗植えを行っています。

2019年の福岡総合サービスセンターの開設を機に、福岡市が実施する「一人一花運動」に協賛し、福岡支社の周辺にある公共の花壇造り「一企業一花壇」に取り組んでいます。



山口支社



福岡支社周辺の花壇

社内募金、寄付講座

社内募金

創立月である7月を「朝日の月」と定め、社会貢献活動の一環として、毎年、全役職員等による「朝日の月」募金を実施し、社会福祉などの分野で活動する団体へ寄付を行っています。第63回目を迎える2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、医療関係等へ物資や人道支援を行っている団体を追加し、総額600万円を以下の12団体に寄付を行いました。寄付金の累計額は3億6,470万円に上っています。



■第63回「朝日の月」募金寄付先

(50音順)

子育てひろば全国連絡協議会
 こども食堂ネットワーク
 J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）
 児童健全育成推進財団「朝日生命伸びゆく子ども基金」
 ジャパンハート
 全国移動サービスネットワーク

日本移植支援協会
 日本いのちの電話連盟
 日本NPOセンター
 日本介護支援専門員協会
 認知症予防財団
 ピースウィンズ・ジャパン

寄付講座

2008年度より昭和女子大学において「現代金融ビジネス入門」と題した寄付講座を開催しています。

本講座は、保険会社・銀行・証券会社などの金融機関の役割やその仕組み、金融商品を活用したライフプランニングなどの基礎知識を習得する内容で、金融リテラシーの向上を目的としています。

講師は、当社を含む金融業界に勤務するビジネスパーソンが務めており、より実践的な講義内容となっています。



2019年度授業風景

ピンクリボン運動の推進

2009年度より「日本から乳がんで悲しむ人をなくしたい」という認定NPO法人「J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）」の活動に賛同し、J.POSHのオフィシャルサポーターとして、乳がんについての啓発と情報提供、自己検診の習慣化や乳がん検査の受診勧奨などの活動を中心としたピンクリボン運動を推進しています。

具体的には、身近な社会貢献活動としてピンクリボン啓発グッズの購入や、乳がんの基礎知識や検査・セルフチェックの重要性を訴えるチラシを配布する街頭キャンペーン、健康イベントへの出展等を実施しています。今後もこれらの取組みをさらに積極的に展開し、ピンクリボン運動の輪を広げていきたいと考えています。

【2020年度実績】

街頭キャンペーン

乳がんの基礎知識や検査・セルフチェックの重要性を訴えるチラシを配布するキャンペーン活動を、毎年10月の「乳がん月間」に全国で実施しています。2020年度は、街頭での啓発活動は一部地域となりましたが、お客様訪問時などを活用して、広く啓発活動を行いました。



愛知東支社



湘南支社



山口支社

乳がん検診お知らせ活動

「すべての女性に私らしく輝く未来を」そんな願いを込めた女性向けの生命保険「やさしさプラス」の社会貢献活動の一つとして、自治体ごとの検診情報をお届けする「乳がん検診お知らせ活動」を行っています。



ピンクリボン啓発チラシ

ホームページ等での情報提供

当社ホームページおよび生活に役立つ内容を満載した生活情報誌「SANSAN（ピンクリボンコラム）」で、乳がんの基礎知識や、早期発見のメリット・セルフチェックのポイントなどを掲載しています。



▲ホームページはこちら

「ピンクリボン運動」とは

乳がんの早期検査を啓発・推進するために行われる世界規模のキャンペーン。

1980年代にアメリカで始まり、日本では2000年に入ってから一般的に認知されるようになりました。

日本ユネスコ協会連盟への支援

国際平和と人類共通の福祉の実現を目指す公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の活動に対し、1963年から維持会員として支援を続けています。また、2019年6月より、同連盟の会長に当社の特別顧問 佐藤美樹が就任しています。

朝日生命ユネスコクラブを通じたボランティア活動

国内で活動する各地のユネスコ協会・クラブのなかで唯一の企業内クラブである朝日生命ユネスコクラブでは、発展途上国の子どもたちの教育支援を続けています。例年、チャリティバザーやチャリティコンサートの開催等を実施しています。2020年度は、会員による寄付支援、書きそんじハガキ・キャンペーンを実施しました。



チャリティコンサートの模様(2019年実施時)

「やさしさプラス」による「世界寺子屋運動」への寄付支援

世界中の女性や子どもの輝く未来のために、女性向け生命保険「やさしさプラス」にご加入いただいたお客様数に応じて「世界寺子屋運動」に毎年寄付支援をしています。

「寺子屋」では識字教育や技術(職業)訓練が行われており、途上国の女性たちの自立や、地域の活性化に貢献しています。

読み書きを学ぶことは、女性の自立を支え、女性が自分らしく生きるために必要な力となります。「やさしさプラス」を通じて、女性の輝く未来のために取り組んでいます。



アサヒフォトコンテスト等を通じた世界遺産保護の取り組み

毎年、多くのお客様からご応募をいただき開催しているアサヒフォトコンテストに、「世界遺産特別賞」を設け、応募点数に応じて「世界遺産活動」に寄付を行っています。

当取り組みを通じて、人類の財産である世界遺産の保護に貢献しています。



2020年度入賞作品
(安芸の宮島)

当社はこうした取り組みを通じ、日本ユネスコ協会連盟が行っている国際支援活動(「世界寺子屋運動」「世界遺産活動」等)や、地域支援活動(「震災復興事業」「未来遺産運動」等)の促進に寄与し、生命保険事業以外においてもSDGs達成に向けた活動を支援することで、持続可能な社会の実現へ貢献してまいります。